

中国軍事の現状と将来 ～米国防省年次報告より～



令和8年1月28日

説明内容

- 年次報告書の概要
- 国家戦略と米中関係等
- 国防政策と軍事戦略
- 2024年の主な近代化の進展
- 2024年の演習等
- 台湾関連の動向
- 国防支出の評価
- 国防関連産業の発展
- 報告書を読んで(今後の焦点と課題)

年次報告書の概要

- ✓ 2000年以降、毎年議会へ報告
- ✓ 2025年版は昨年12月公表
- ✓ 付録を含めて100頁（昨年180頁）
- ✓ 抑制的な記載内容との評価

- 1章 中国の戦略と米中関係
- 2章 2024年の人民解放軍の戦略と能力
- 3章 2024年の人民解放軍の戦力投射
- 4章 国防支出、資源、技術
- 5章 特記事項



年次報告書の概要



2024年次報告

- 1章 中国戦略の理解
- 2章 人民解放軍の戦力と能力
- 3章 軍編制と周辺域での活動
- 4章 人民解放軍の海外進出の拡大
- 5章 軍近代化のための資源と技術
- 6章 防衛交流
- (7章) 特記事項

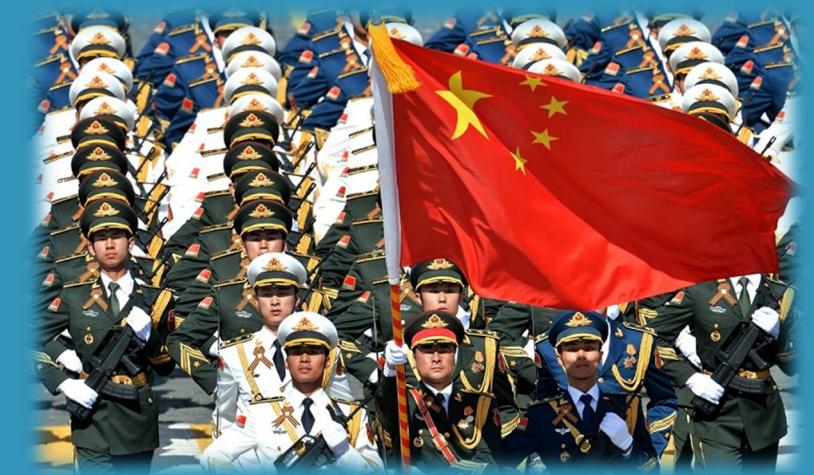


2025年次報告

- 1章 中国の戦略と米中関係
- 2章 人民解放軍の戦略と能力
- 3章 人民解放軍の戦力投射
- 4章 国防支出、資源、技術
- 5章 特記事項

年次報告書の概要

- 2049年までに一流の軍隊(world-class)への目標
- 国家総力戦(national total war)
- 2027年までの目標
 - 戰略的決定的勝利(台灣で勝利する能力)
 - 戰略的均衡(米国の介入を核などで抑止)
 - 戰略的抑止と制御(周辺国の行動を抑え込む)
- 台湾での勝利
 - 大規模な上陸侵攻
 - 大規模火力打撃
 - 海上封鎖



国家戦略と米中関係等

➢ 国家戦略の基盤と最近の動向

- 核心的利益の保護

- ①中国共産党の支配、②経済発展の継続、③主権・領土の維持と拡大

- 改革方針(2024年7月三中全会)

- ①腐敗撲滅の強化、②軍民融合の加速、③国防動員・民兵・国境防衛の改革

➢ 台湾への圧力

- 独立阻止→統一に向け圧力を継続的に加える

- 「平和的統一」の文言削除 ⇔ 平和的統一は基本方針

- 平和的統一は棚上げし圧力路線へ移行



国家戦略と米中関係等

- 対米認識と米中関係
 - ・脅威:米日韓の三国協力、比への米軍展開、台灣の防衛強化、ミャンマー内戦、朝鮮半島緊張などの地域的不安定化
 - ・競争しながら管理する段階へ(軍事対話と挑発)
- 中露軍事協力
 - ・米国に対抗する戦略的パートナー
 - ・相互不信(軍事同盟未満)→米国にとっては二正面課題
- その他
各地域における積極的な軍事交流



国防政策と軍事戦略

➤ 国防政策

主権・安全・発展利益を断固として守る

➤ 軍事戦略

- Active Defense
- Effective Control と War Control

➤ 三段階の発展戦略

- 2027年までに「機械化・情報化・知能化の統合的発展を加速」
- 2035年までに「国防と軍の近代化を基本的に完成」
- 2049年までに「PLAを完全に世界一流の軍隊へ転換」

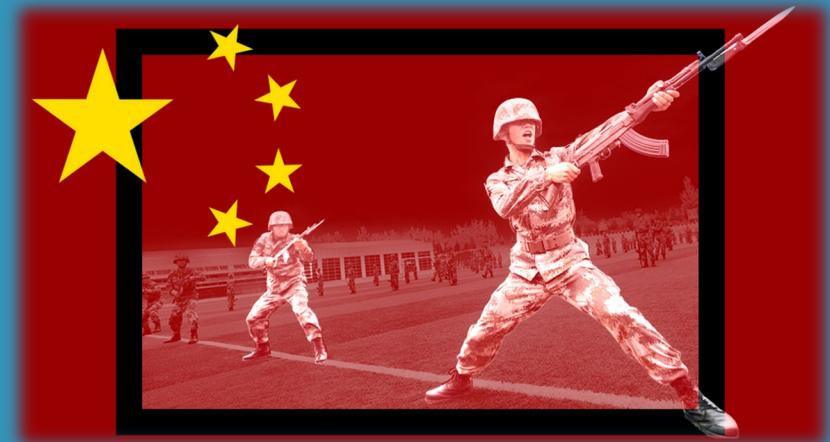
➤ 三大戦略的能力

- 戰略的決定的勝利(台湾で勝利する能力)
- 戰略的均衡(米国の介入を核などで抑止)
- 戰略的抑止と制御(周辺国の行動を抑え込む)



国防政策と軍事戦略

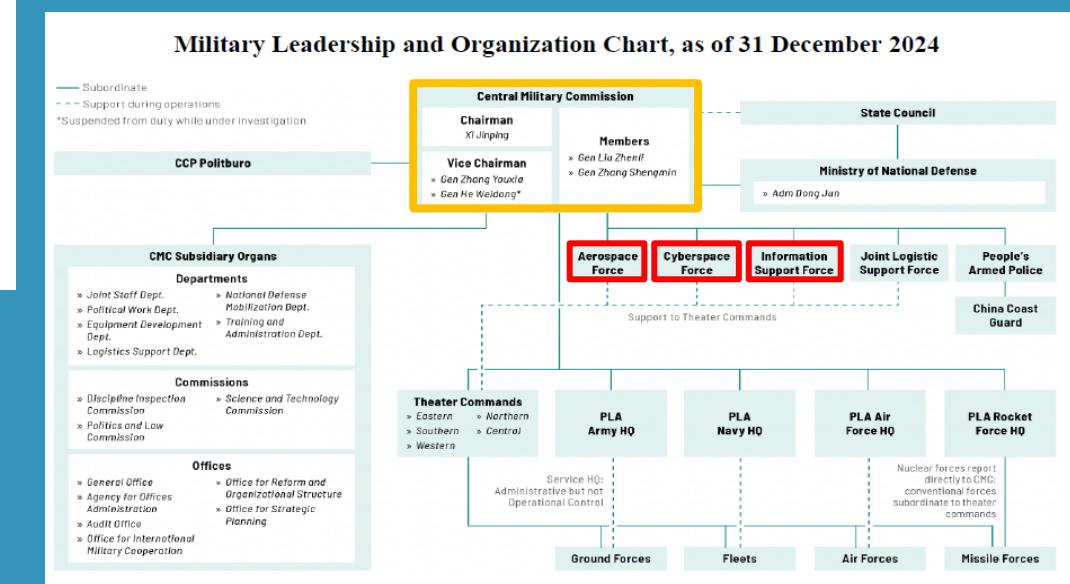
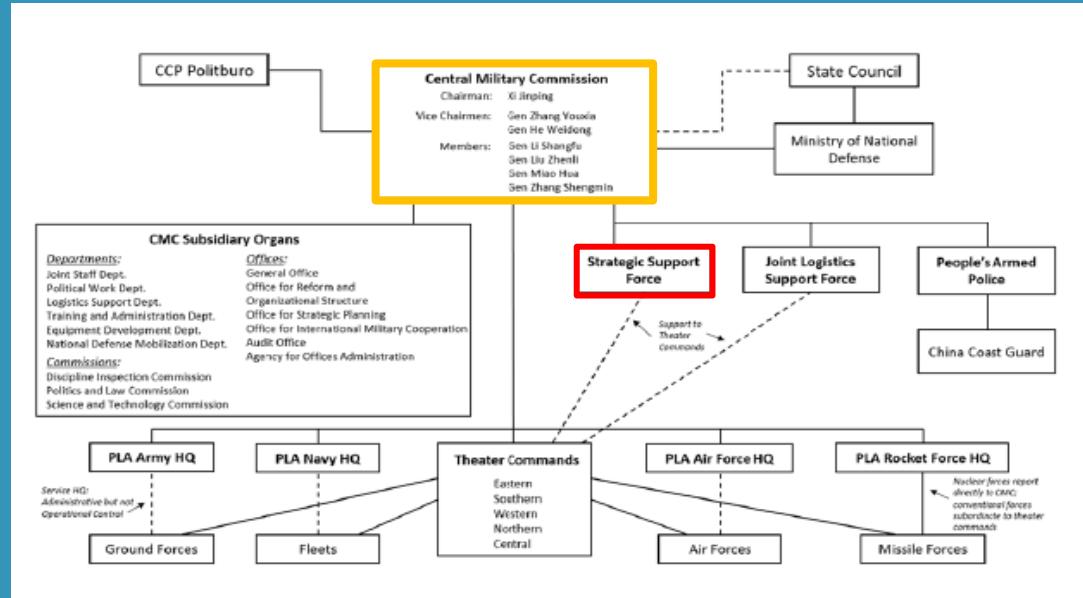
- 軍事戦略指針の改訂
 - 攻勢性の強化
 - 米国が主な仮想敵であることの明確化
 - エスカレーションへの自信と長距離精密打撃能力への依存
 - 国家総力戦の準備
- ドクトリン(第5世代教義)
中国人民解放軍統合作戦綱要(試行)
- マルチドメイン精密戦
中核的作戦構想
- その他
 - シミュレーション、ウォーゲームの強化
 - 即応性の強化



2024年の主な近代化の進展

➢ 組織改革

- ・ 戰略支援軍の解体と情報支援軍の新設
- ・ 宇宙軍、サイバー空間軍、情報支援軍の直轄化



2024年の主な近代化の進展

- 情報戦
 - ・ 情報ネットワーク戦能力の強化
 - ・ 統合作戦能力の発展
 - ・ 国産兵器システムの開発促進
 - 統合作戦指揮統制(C2)
 - ・ Joint Sword 2024A及びB
 - 東部戦区JOCCが指揮統制
 - 海警船の統合運用
 - マルチドメイン戦
 - 複数の戦区における戦闘



2024年の主な近代化の進展

➢ 航空機



J-50(瀋陽航空機)



J-36(成都航空機)



KJ-3000(西安航空機)

2024年の主な近代化の進展

➤ 艦艇



福建(江南造船)



2024年の主な近代化の進展

➤ C4ISR

- センサー等
 - 地上インフラ: 光ファイバー網、Skywave OTH レーダー
 - 空中センサー: AWACS、SIGINT/ELINT、UAV
 - 海洋センサー: 哨戒艦等
 - 宇宙: 359基以上のISR衛星群

LEO通信衛星コンステレーション計画

- 本土から1,500～2,000NMで打撃能力有効
(西太平洋～東南アジアへの展開)

➤ 電子戦・レーダー能力

- 新型電子戦システム搭載装甲車
- 新型長距離レーダー



2024年の主な近代化の進展

➤ サイバー

- ・情報支援軍: PLAのネットワーク情報システム、通信支援
- ・サイバー空間軍: サイバー戦、電子戦、技術偵察、心理戦、影響工作など
- ・中国関連の侵入は前年比150%増加
- ・サイバー・スパイ活動: 将来に備えた事前配置を継続
 - サイバー作戦: Salt Typhoon、Volt Typhoon
 - 国家支援型サイバー・アクターによる作戦



2024年の主な近代化の進展

➢ 宇宙

- 打ち上げ
 - 再使用型ロケットの垂直離着陸試験に成功
 - 中型ロケットの洋上打ち上げ実施
 - 海南商業打ち上げセンターが新たな発射施設を完成
 - 大型再使用ロケット試験飛行を2025～2026年に計画
- SATCOM
 - メガコンステレーションの初期衛星群打ち上げ
 - Quainfan計画の最初のインターネット衛星18基打ち上げ
- ISR衛星
 - 67基の衛星打ち上げ(総数は500基以上に)



2024年の主な近代化の進展

- 宇宙
 - 宇宙協力
 - 50か国以上と約200件の宇宙協力協定締結
 - セネガルが中国主導の国際月面研究ステーション(ILRS)に参加
 - 月・深宇宙探査
 - 月の裏側からのサンプル回収成功(世界初)
 - ILRSのプロトタイプ構築を計画
 - 中国宇宙ステーションに2回の有人ミッション、2回の補給ミッションを実施
 - 2030年までに有人月面着陸を目指すと発表
 - DRO衛星の実証や月面通信衛星の打ち上げ

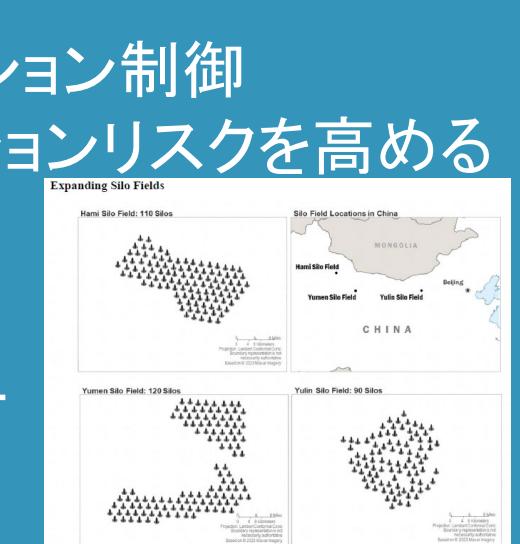
2024年の主な近代化の進展

- 宇宙(対宇宙戦能力)
 - ・地上発射型ASAT
 - 低軌道衛星用ASATミサイル保有
 - 全軌道対応ASATミサイルの配備を目指す
 - ・軌道上ASAT能力
 - TJS-3衛星の接近、ロボットアーム(試験21号)で他衛星の移動を実証
 - 試験24号衛星群が複雑な接近、ランデブーを実施
 - ・サイバー
 - Volt Typhoon:米国の宇宙防衛ネットワークへ侵入
 - ・電子戦
 - GNSSスプーフィング装置、SATCOM妨害装置開発中
 - SAR衛星への妨害、高周波通信帯域へのジャミング
 - ・指向性エネルギー兵器
 - 地上配備型レーザー兵器を複数展開

2024年の主な近代化の進展

➤ 核戦力

- ・生産ペースはやや鈍化しつつも、2030年までに1,000発以上の核弾頭保有見通し
- ・ICBMの外洋発射
DF-31Bを海南島北部から発射し、仏領ポリネシアに着弾
- ・早期警戒反撃能力(EWCS)の進展
 - 宇宙配備型早期警戒システムの拡張
 - 地上配備型大型フェーズドアレイレーダーの補完
 - ICBMの連続発射訓練
- ・低出力核兵器の開発 → 限定的な核反撃によるエスカレーション制御
- ・核抑止の拡張と政策の矛盾 → 暖昧さと誤解がエスカレーションリスクを高める
- ・軍備管理と透明性の欠如
 - 二国間・多国間議論に消極的
 - 米中間の軍備管理・不拡散協議メカニズムを一方的に停止



2024年の主な近代化の進展

➤ その他(汚職、準軍事組織)

- ・人民武装警察部隊(約50万人):国内治安維持、緊急対応、海上法執行等
 - 内衛部隊:各省、直轄市、自治区に配置
新疆ウイグル自治区に重点配備
 - 機動部隊:内衛部隊を支援、柔軟対応
テロ対策、強襲、偵察、人質救出、狙撃、爆発物処理等の能力
 - 海警局:海上法執行
- ・中国海上民兵
 - 武装予備部隊(民間人)、中央軍事委員会の指揮下
 - 漁民などを動員し、海軍や海警と連携し公式任務を遂行
 - 平時任務:海上権益の主張・拡張
 - 戦時任務:偵察、障害設置、兵站支援等
 - 2024年は、南シナ海での活動に新展開



2024年の演習等

➤ 訓練・演習の特徴

- ・ 統合作戦と実戦的な対抗演習
- ・ 新技術の導入
- ・ 遠洋作戦、上陸作戦、夜間戦闘、対艦防御、兵站、システム運用訓練
- ・ 準軍事組織との統合訓練
- ・ 台湾周辺での短期通知型演習による柔軟・即応の実証

Leading Organization	Name
PLAAF	RED SWORD
	BLUE SHIELD
	ELECTRONIC SUPPORT
	GOLDEN HELMET
	GOLDEN DART
PLAA	STRIDE
	FIREPOWER
	SEVERE COLD
JLSF	JOINT LOGISTICS MISSION
PLAN	DEEP BLUE
PLARF	HEAVEN SWORD

2024年の演習等

- 主要な演習等
 - 空母2隻による合同訓練
「遼寧」と「山東」空母打撃群の統合作戦能力を検証
 - 台湾関連の短期通知型演習
 - Joint Sword 2024A(5月)、Joint Sword 2024B(10月)
 - PLA航空機、PLA艦艇、海警船が台湾本島及び離島を包囲
 - ミャンマー国境での実弾演習(南部戦区主導、春～夏)
 - 2023年以降の国境不安定化に対応
 - 機動性、偵察、国境管理、防空、火力投射能力を訓練



2024年の演習等

➢ 国家安全保障支援作戦

- 海賊対策任務
16年継続する海外海軍作戦
- 平和の方舟(医療と外交強化を目的)
第10回多国間医療ミッション(13か国を訪問)
- PKO(レバノン、スーダン、南スーダン)
PLAから1,700名以上派遣

➢ 対外合同演習

- 26件の外国軍との合同演習に参加
- ロシアとの連携強化
- アフリカでの演習規模拡大、アジアは継続的

Exercise Name	Month	Participants	Type of Exercise
MARITIME SECURITY BELT	March	Iran, Russia	Maritime Exercise
GOLDEN DRAGON		Cambodia	Multidomain Exercise
STEPPE PARTNERS	May	Mongolia	Ground Exercise
GOLDEN FRIENDSHIP		Bangladesh	Counterterrorism Ground Exercise
INCREMEX		Nigeria, Cameroon, Brazil	Naval Exercise
China-Russia Counterterrorism Exercise	June	Russia	Counterterrorism Ground Exercise
China-Belarus Counterterrorism Exercise		Belarus	Counterterrorism Ground Exercise
FRIENDSHIP SHIELD		Laos	Ground Exercise
JOINT SEA	July	Russia	Naval Exercise
FALCON SHIELD		UAE	Aerial Exercise
PEACE - UNITY		Tanzania	Counterterrorism Multidomain Exercise
PEACE - UNITY		Mozambique	Naval Exercise
KHAAN QUEST		Mongolia, Multinational	Peacekeeping Ground Exercise
GULF OF FINLAND EXERCISE	August	Russia	Naval Exercise
FALCON STRIKE		Thailand	Aerial Exercise
PLA-Egypt		Egypt	Maritime Exercise
OCEAN		Russia	Naval Exercise
NORTHERN INTERACTION		Russia	Naval Exercise
FORMOSA	September	Brazil, United States, France, Italy, Mexico, Argentina, Nigeria, Pakistan, the Republic of the Congo and South Africa	Ground Exercise
SAGARMATHA FRIENDSHIP		Nepal	Ground Exercise
STRIKE		Thailand	Ground Exercise
EXERCISE COOPERATION		Singapore	Naval Exercise
PACIFIC PATROL	October	Russia	Coast Guard Exercise
COMMANDO		Thailand	Counterterrorism Ground Exercise
China-Pakistan Counterterrorism Exercise		Pakistan	Counterterrorism Ground Exercise
HEPING GARUDA	December	Indonesia	Naval Exercise

Identified Locations of PLA Interest



2024年の演習等

➤ 海警局の演習・活動

- 台湾周辺での統合作戦の強化（法執行能力の統合）
 - PLAとの連携を強化
 - 中国漁民2名死亡事件後、中央が巡視強化を指示
- Joint Sword演習への初参加
PLAとの統合作戦能力を初めて検証
- 南シナ海での攻撃的行動の拡大
体当たり、航行妨害、執拗な追跡・監視活動
- 法執行の強化
「2021海上交通安全法」の施行細則を制定
- ロシアとの初の海警合同演習



台灣関連の動向

➤ 台湾有事に向けた動向(態勢、活動等)

外交的压力、情報戦・認知領域作戦、軍事的压力、経済的压力を継続

▪ 対台湾軍事オプション

① 戦争に至らない強制戦略(サイバー攻撃、電子戦、限定的打撃で交渉を強要)
低リスクだが決定的な成果を得にくい、台湾の抵抗意志と米国支援による

② 統合火力打撃作戦(ミサイル、航空精密攻撃)

空口ケット宇宙統合調整に課題、BDAと即時の再攻撃に課題

③ 統合封鎖作戦(海空封鎖による物流、経済の遮断)

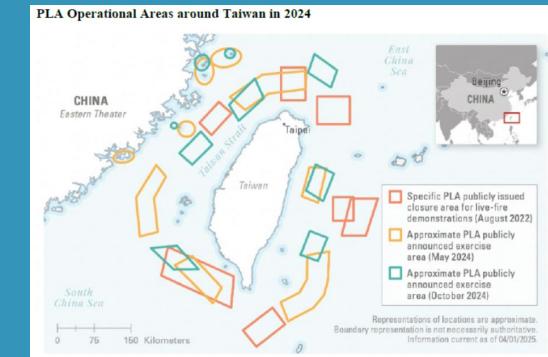
時間を要する、決定的効果を得にくい

④ 統合島嶼上陸作戦(本格的侵攻)

高リスクだが、最も決定的な統一手段

▪ 現在の課題

情報支援軍、サイバー空間軍、宇宙軍の再編が進行中でnon-kinetic能力に課題



台灣関連の動向

➢ 台湾の防衛能力の進展

- 防衛改革を加速
- Joint Sword演習から対応のための投資を顕在化
- 全社会的防衛レジリエンス(WoSDR)
 - WoSDR委員会を創設
 - 政府、NGO、企業を統合し軍事的脅威や大規模災害への対応力強化(5つの柱)→①市民訓練、②重要物資の備蓄、③インフラの保護、④医療・避難体制の強化、⑤通信・金融ネットワークの防護
- 徴兵期間の延長(4か月→1年)
- 国内防衛産業の強化(国産化推進)、防衛支出の増加等



国防支出の評価

➤ 総額と実態

- ・習近平が総書記に就任した2013年から倍増
- ・2024年発表は2,310億ドルだが、実総支出は3,040～3,770億ドルと推定(+32%～63%)

➤ 課題と今後の見通し

- ・研究開発・装備調達費の増加
効率性、コスト削減のインセンティブ低い
- ・人件費の拡大
高学歴人材の採用、民間企業との競争による高騰、退役軍人への支援費用
- ・国内治安関連支出(320億ドル)はマスト
- ・今後の見通し
経済成長率は2030年までに3～4%に減速し、国防費の伸びも制約

国防関連産業の発展

➤ 国家戦略と技術自立の加速

- ・第14次5か年計画(2021～2025)
- ・科学技術での主導権確保(国家戦略の中核) 軍民融合政策
- ・破壊的技術や次世代兵器の開発が重点分野

➤ チョークポイント技術/デュアルユース技術への投資

- ・AI : 低性能チップの最適化、アクセラレーターの備蓄、輸入規制の回避等
- ・バイオテクノロジー : 脳科学、ニューロモルフィックコンピューティング、バイオ製造
- ・量子技術 : 超伝導量子コンピューターを発表、南アと量子通信の宇宙実証を実施
- ・先端半導体 : 特化型チップに注力、フォトニクス、マグノニクス、超広帯域材料などの新技術研究
- ・エネルギー技術 : 新型バッテリー、太陽電池、水素燃料電池等



国防関連産業の発展

➤ 軍事への応用

- ・ AI（インテリジェント化戦争への移行）
 - 意思決定支援、ISR分析、サイバー作戦、影響工作等の強化等
 - CCAなど自律制御への転用
- ・ バイオテクノロジー（人間強化）
合成生物、バイオミメティックロボット、ヒューマンマシン協調等
- ・ 量子技術
量子暗号、量子センシング、量子通信ネットワークの地上・宇宙インフラ構築中
- ・ 先端半導体
高速演算、省電力、高耐圧により無人機、ISR、指揮・兵站ネットワークを支える
- ・ エネルギー技術
長時間運用、静音、低熱源などの応用



国防関連産業の発展

➤ 武器輸出の動向(世界第4位の武器輸出国)

- ・ 主力戦闘機(パキスタン、ミャンマー等へ)
FC-31(5世代ステルス)、J-10C(4世代多用途)、JF-17(パとの共同開発
軽戦闘機)
- ・ 攻撃型UAV(アフリカ、中東諸国へ)
彩虹シリーズ、翼龍シリーズ
- ・ 陸上兵器(タイ、バングラデッシュ等へ)
主力戦車(MBT)、水陸両用戦闘車両等
- ・ 防空システム(セルビアへ)
地対空ミサイルシステム(FK-3)をへ
- ・ 哨戒艦、潜水艦(タイ、パキスタン、ミャンマー等へ)
元級・明級潜水艦、フリゲート艦

Fixed Wing Transfers Since 2020		
Equipment	Deliveries	Negotiations
FC-31	As of May 2025: no sales	Interested clients include Egypt, Saudi Arabia, and the UAE.
J-10C	As of May 2025: delivered 20 units—their only J-10C exports—to Pakistan as part of two previous orders totaling 36 since 2020	Egypt, Uzbekistan, Indonesia, Iran, Bangladesh have expressed interest.
JF-17	As of May 2024, Azerbaijan, Burma, and Nigeria	As of 2024 is negotiating with Iraq.

国防関連産業の発展

➤ 武器輸入の現状と見通し

- ・過去5年で武器輸入は約1/3に減少
- ・国産化など装備の自給自足化が加速
- ・主な輸入先はロシア
- ・ウクライナは依然としてエンジン等の供給国
- ・今後は、特定分野のニッチなギャップを埋めるための
限定的なものに移行する可能性大



国防関連産業の発展

➤ 国内産業や軍事近代化を支える活動

- スパイ活動

- 経済スパイ、サイバー侵入、非合法エージェントの活用等

- 米海軍兵士機密漏洩事件

- 中国人ハッカー2名に対する米司法省逮捕状

- 米陸軍兵士2名が国家防衛情報提供容疑

- 人材招致プログラム、政府系奨学金制度

- 中国のトップ大学が中心的役割

- 200以上の招致プログラムを運用

- 米国R1、R2大学がターゲット

- 留学生の「学術的帰還」促進

- 特に米国で学ぶ中国系留学生対象(中国内博士課程への優先進学等)



報告書を読んで(今後の焦点と課題)

- 今後のPLAの能力向上
 - 統合作戦能力の向上
 - 東部戦区の指揮統制
 - 海空軍間と海警、民兵等の連携行動
 - 南部戦区等他戦区との連携行動
 - 宇宙における優越競争
 - 宇宙からの作戦支援及び宇宙戦能力(軌道戦等)の向上
 - 宇宙ステーションの本格的運用
 - 新たな戦い方への熟練
 - マルチドメイン精密戦能力向上
 - ドローン等無人機・艦艇の運用能力向上
 - 米国との能力差をどこまで縮めるか



風傳媒
THE STORM MEDIA

報告書を読んで(今後の焦点と課題)

➢ 日本周辺の動向

- 更なる挑発
 - 領空侵犯、領海侵入
 - レーダー照射やフレア射出、異常な接近、
 - 放水、音響兵器使用、体当たり
 - 中露連携行動による威嚇
 - EEZ内での訓練や演習の常態化
- 冒険への一歩
 - 臨検、税関、入国手続き等
 - 魚釣島以外の島への接近、上陸
 - 日本漁船の拿捕

